

俳句コンクール成績発表

S 25 専電 塚越 としを

〔兼題：冬至・枯野・鴨〕

【特選】侘^わびしさよトンガ南瓜で冬至かな S 30 学機 檜山 邦良

評 南太平洋のトンガ王国生産の南瓜（日本の種とか）の殆どが日本へ輸出される。現地では、あまり食べないで豚の餌にするそうだ。少し自嘲的な面白い句。

【佳作】夕待ちて餌場へ翔^かつや沖の鴨

S 30 学機 檜山 邦良

（この鴨は海鴨、小魚・貝などを食す。良く情景を描写しています）
青首の色ありありと先頭^{はな}をゆく 会友 平野 昌子

（「青首」とは真鴨の雄、鮮やかな青色の首を振っていかにも得意気です）
何事もなき幸せを冬至の湯 " " " " " "

（生きている毎日が素晴らしい。これは、達観ですね。）
旅の宿月を見ている枯野かな S 34 学原 芝山 佑芳

（枯野が月を見ているとは、面白い。勿論、作者も）
大鳥居を昇る朝日や冬至の日 " " " "

（大鳥居は冬至の日の出ルート、深く、拝しましょう）
二つ三つ柚子を浮かせて冬至風呂 S 38 学電 熊谷 文男

（少しケチりましたかね。もっとどんと、大きく生きましょう）
幼子のリボン枯野を駆け巡る " " " "

（可愛い女の子のリボン、それが枯野に翻る、その対比が良いですね）
野天風呂徳利浮かべて冬至かな S 30 学電 綿引 貞男

（あれあれ、柚子はどうしました？ 流石、お仲間ですものね）
鴨飛びて波紋広がる水辺かな " " " "

（情景を観察して作りました。非常に良いことです）
遠山に夕日の落ちる枯野かな S 32 学金 穂坂 邦光

（虚子に、「日の当たりたる」という名句があります。比べて下さい）
鴨の群れ晴るる御空に鳴き渡る " " " "

（気持ちの良い句です。「御空」が宜しい）
鴨引きて静けさ戻る池一つ 穂坂 芳子（邦光氏夫人）

（佳句です。「静けさ戻る」が最高に宜しい）
枯野ゆく子等の帽子の花模様 " " " "

（「枯野」と「花模様」のバリエーションが眼に見えます）

【選者吟】夫婦鴨 銀^{しろがね}いろの水尾曳きて としを

柚子の香や一番風呂を戴きぬ " "

珈琲や車窓を走る大枯野 " "